



石上神宮

心のやすらぎを願って

いそのかみじんぐう

石上神宮

〒632-0014 天理市布留町384

電話 0743-62-0900 振替 00930④26168

FAX 0743-63-3124

交通

○JR・近鉄天理駅より東方へ徒歩30分・タクシーにて5分。

○車は西名阪自動車道、天理東インターを下り南へ1キロ。



拝殿 (国宝)



摂社出雲建雄神社拝殿 (国宝)

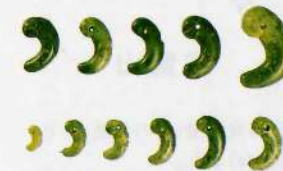
崇敬会入会の御案内

石上神宮を敬い、その御神徳により日々平穏無事な暮しができますようにと願う方々の全国的な組織で、年一度大祭を執行し、会員皆様の心願成就を特別祈願致します。また、会員別により各種の祭典にご案内する他様々な特典があります。入会御希望の方は社務所迄お問い合わせ願います。

- 一、正会員 年会費 三千元
- 一、特別会員 年会費 五千元
- 一、名誉会員 年会費 壹万円
- 一、一代名誉会員 終身会費壹拾万円



鉄盾 (重文)



硬玉勾玉 (重文)



環頭大刀柄頭他 (重文)



七支刀 (国宝)

主たる年中行事

- 一月一日 歳旦祭
- 一月十五日 古神符焼納祭
- 節分前夜 玉の緒祭
- 節分当日 節分祭
- 二月十一日 紀元祭
- 二月十九日 祈年祭
- 四月第一日曜 献燈講社大祭
- 四月十五日 春季大祭
- 五月三日 長寿講社春季大祭
- 六月三十日 神剣渡御祭(でんでん祭)
- 六月三十日 大祓式
- 九月第一日曜 崇敬会大祭
- 十月一日 榜示渡御祭
- 十月十五日 例祭(ふるまつり)
- 十一月三日 長寿講社秋季大祭
- 十二月三日 鎮魂祭
- 十二月十三日 新嘗祭
- 十二月十八日 お火焚祭
- 十二月十三日 天長祭
- 十二月三十一日 神庫祭・大祓式・除夜祭
- 毎月一日・十五日 月次祭

石上神宮は大和盆地の中央東寄り、龍王山の西の麓、布留山（標高二六六メートル）の北西麓の高台に鎮座し、境内はうっそうとした常緑樹に囲まれ、神さびた自然の姿を今に残しています。北方には龍王山より発した布留川が流れ、周辺は県下有数の古墳密集地帯として知られています。

当神宮は、日本最古の神社で武門の棟梁たる物部氏の総氏神として古代信仰の中でも特に異彩を放ち、健康長寿・病氣平癒・除災招福・百事成就の守護神として信仰されてきました。

御祭神は、神武天皇御東征の砌、国土平定に偉功をたてられた天劍（平国之劍）とその靈威を布都御魂大神、鎮魂の主である天璽十種瑞宝の起死回生の靈力を布留御魂大神、素盞鳴尊が八岐大蛇を退治された天十握劍の威靈を布都斯魂大神と称え、総称して石上大神と仰ぎ、第十代崇神天皇七年に現地石上布留の高庭に祀られました。古典には『石上神宮』『石上振神宮』『石上坐布都御魂神社』と記され、

御祭神

布都御魂大神 布留御魂大神 布都斯魂大神

配祀

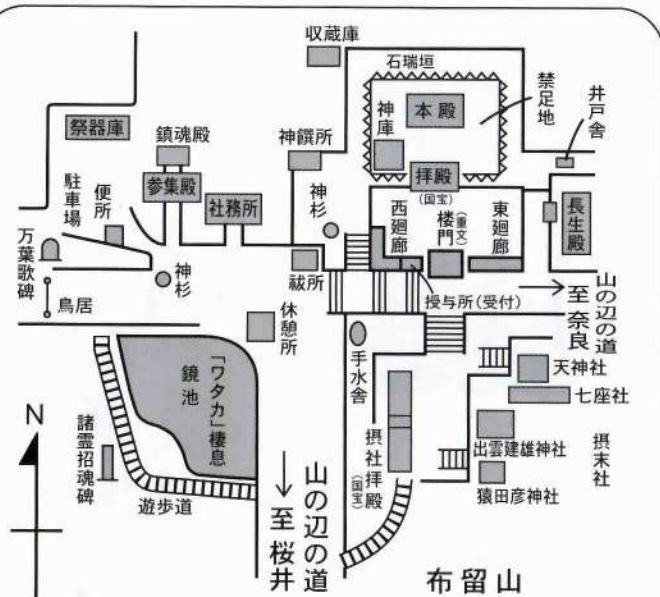
五十瓊敷命 宇摩志麻治命
白河天皇 市川臣命

摂末社

摂社としては出雲建雄神社、鎮魂八神を祀る天神社（高皇産靈神・神皇産靈神）・七座社（生産靈神・足産靈神・魂留産靈神・大宮能売神・御膳都神・辞代主神・大直日神）があります。

出雲建雄神社は延喜式内社で天叢雲劍（草薙劍）の靈威を出雲建雄神と称え祀られています。同社拝殿は、内山永久寺（現慶寺）鎮守社の拝殿でしたが、大正三年当地に移築されました。保延三年（一一三七）の建立といわれ、中央に一間の通路がある割拝殿形式で国宝に指定されています。

末社としては境内に猿彦彦神社・神田神社・祓戸神社、境外に恵比須神社があります。



※参道を下って南側（左側）に神宮外苑公園（桜の名所）あり。

※参道を下って道路西側に駐車場（70台）あり。

※参道を下ったところに末社神田神社あり。

また、境外（布留町）に末社恵比須神社あり。

宝物

この他『石上社』『布留社』等とも呼ばれていました。中世に入ると興福寺の莊園拡大、守護権力の強大化により、布留川を挟み南北二郷からなる布留郷を中心とした氏人は、同寺とたびたび抗争しました。戦国期に至り、織田尾張勢の乱入により社頭は破却され、壺千石と称した神領も没収され衰微していききました。しかし、氏人たちの力強い信仰に支えられて明治を迎え、神祇の国家管理が行われるにともない、明治四年官幣大社に列し、同十六年には神宮号復称が許されました。

当神宮にはかつて本殿がなく、拝殿後方の禁足地を御本地と称し、その中央に主祭神が埋斎され諸神は拝殿に配祀されていました。明治七年管政友大宮司により禁足地が発掘され、御神体の出御を仰ぎ、大正二年御本殿が造営されました。

禁足地は現在も布留社と刻まれた剣先状石瑞垣で囲まれ、昔の佇まいを残しています。

当神宮には古代各氏族の王権を象徴する神宝を始め、大和朝廷の数多くの神宝類が天神庫に保管されていました。それは垂仁天皇第一皇子の五十瓊敷命が管理するほどの莫大な量でした。下って桓武天皇延暦二十四年（八〇五）に神宮の器仗を山城国葛野郡に遷すのに十五万七千余人の人員を要したと『日本後紀』に記されています。しかし、中世以降社頭は衰退の一途を辿り、度々の盗難に会い、戦国時代には尾張勢の乱入により多くの宝物が散逸しました。現在残っているのは少量ですが貴重なものが多く、古代の日朝関係を考察する上で不可欠な七支刀（国宝）を始め、鉄盾（重文）、足利尊氏奉納と伝えられる色々威腹巻（重文）、更に明治七年の禁足地発掘により出土した勾玉・管玉・環頭大刀柄頭等（重文）が神庫に収蔵されています。

尚、毎年大晦日には、神庫の守護神を祀り、その安泰を祈る神庫祭が斎行されます。

山の辺の道

社に背を向けて左側に向かって進むと、日本最古の道「山の辺の道」へと導かれます。大和盆地の東部、青垣なす山々の裾野を南へ縫いながら遙か西方に大和三山・二上山を眺め、桜井市海石榴市まで五時間前後で散策できるハイキングコースです。また、北方へは奈良市の柳生街道へと通ずる道の起点でもあります。『日本書紀』武烈天皇の巻にある物部影媛が詠んだ悲歌の頃より現代に至るまで、多くの人々が様々な想いを抱きながらこの道を歩いたことでしょう。

石の上 布留を過ぎて 薦枕 高橋過ぎ 物多に
大宅過ぎ 春日 春日を過ぎ 妻隠る 小佐保を過ぎ
玉筈には 飯さへ盛り 玉盃に 水さへ盛り
泣き沾ち行くも 影媛あはれ